

Ⅲ 中高一貫教育校の教育内容等

1 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容

中高一貫教育では、6年間の継続的な学びや幅広い異年齢集団による学び合いなどの特徴を生かし、実験・観察を重視した課題探究的な学習や、ボランティア活動、部活動をはじめ、様々な体験的活動などに、継続的にじっくり取り組むことができます。

札幌市が設置する中高一貫教育校においては、開成高校コスモサイエンス科の教育内容と中高一貫教育の特徴を融合させ、特色ある教育内容を実施することが可能であり、探究心に富んだ生徒やじっくり考えることが向いている生徒に対して、更に充実した学びの場を提供するとともに前述の「自立した札幌人」の育成を目指していきます。

★ 中高一貫教育の特徴（再掲）

- ◆ 高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成を行うことなどが可能となる「6年間を通した学びの連続性」
- ◆ 現行の中学校・高校に比べ、幅広い異年齢集団が共に学習したり、様々な活動を行ったりすることが可能となる「幅広い異年齢集団による学び合い」
- ◆ 中学校・高校を通した6年間の学校生活において、様々な体験や教育活動の中で生徒が繰り返す試行錯誤をじっくり見守り、支援することが可能となる「6年間にわたる見守り」

★ 開成高校コスモサイエンス科の取組

① 自然科学系の教養の充実及び課題探究的な学習の重視と発信型の英語力の育成

◎ 課題探究的な学習とその目的

課題探究的な学習とは、設定した課題を解決するプロセスをなぞっていく学習手法。

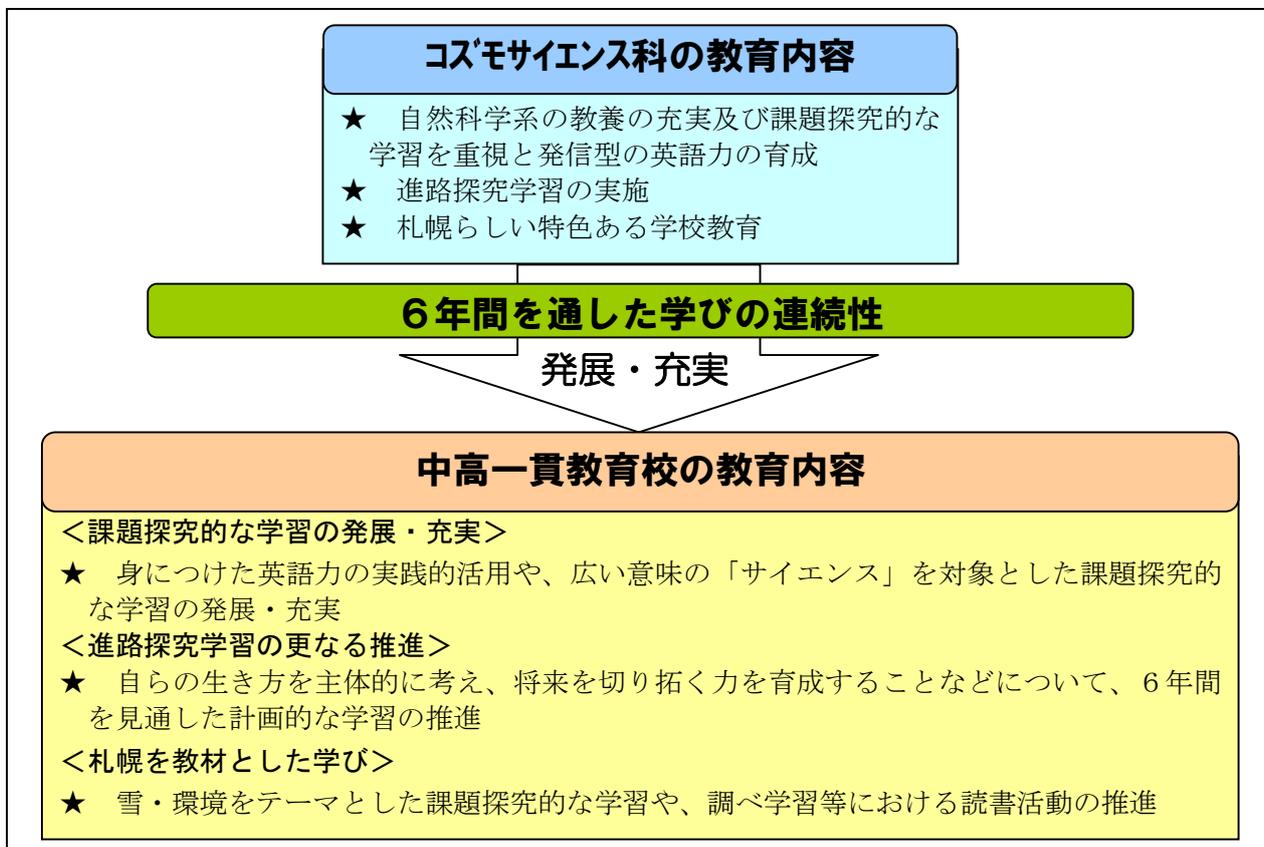


こういった、多面的に物事を捉えるなどの作業を通して、思考力や判断力、表現力と併せて、生徒自らが課題を探究し解決する手法を身に付けさせ、課題発見・解決力を育てることを目的としています。

- 体験的な学習を重視し、生物や地学分野における野外観察などの実体験をさせる学習を通して、知的好奇心を喚起しながら、生徒自らが課題を発見し、考え、解決する場を提供するとともに、大学での先端科学技術の授業など「ほんもの」に触れる機会を提供しています。
 - 科学的教養、論理的思考力、表現力を用いてレポートをまとめるとともに、1・2年合同発表会を開き、発表能力の育成を図っています。
 - 様々な事柄について、英語で得た情報に基づいて、プレゼンテーション等を行い、発信型の英語力を養うほか、「世界に通じる英語力の育成」を目指し、速読やエッセイライティングなど、将来世界で活躍する際に必要となるスキルを育成しています。
- ##### ② 進路探究学習の実施
- 自分自身を発見し、将来の生き方・進路について考えさせるため、職場体験等の体験学習や社会人や卒業生の講話を聞く機会などを設けています。
- ##### ③ 札幌らしい特色ある学校教育（環境を題材とした学習）
- 専門科目「環境科学」において、自然・人間・社会のことを科学的に学び、実習や調査なども行ないながら、解決の糸口を生徒自ら探る学習を実施しています。

(1) 「6年間を通した学びの連続性」を生かした取組

高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成によって、学習効果を高めることができます。



ア 課題探究的な学習の発展・充実

6年間じっくりと課題探究的な学習に取り組むことができる環境を生かして、その中で発信型の英語力の活用を図りながら、課題探究的な学習全般の発展・充実を図ります。

<展開例>

- ・ 中学校段階から高校段階を見据えた課題探究的な学習に取組み、必要な技能や姿勢を身につけることで、高校段階で先端の科学技術などより高度な課題を探究する学習に挑戦する意欲と力を育てることが可能になります。
- ・ 重点的に学ぶ発信型の英語力は、6年間をかけることで、他国の異なる文化や環境問題など地球規模の課題について、英語で発表したり、ディスカッションしたりすることができるレベルにまで高められるので、課題探究的な学習の幅がグローバルに広がります。

※ コズモサイエンス科の方向性を示す、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味の「サイエンス」を、深くバランスよく学ぶことが可能に！

○ 特徴を生かした教育活動

英語の実践的な活用を含めた課題探究的な学習の実施

○ 期待される効果

- ◆ 課題発見・解決力
- ◆ 思考力・判断力・表現力
- ◆ 国際的な視野

＜参考＞習得・活用・探究の学習スパイラル

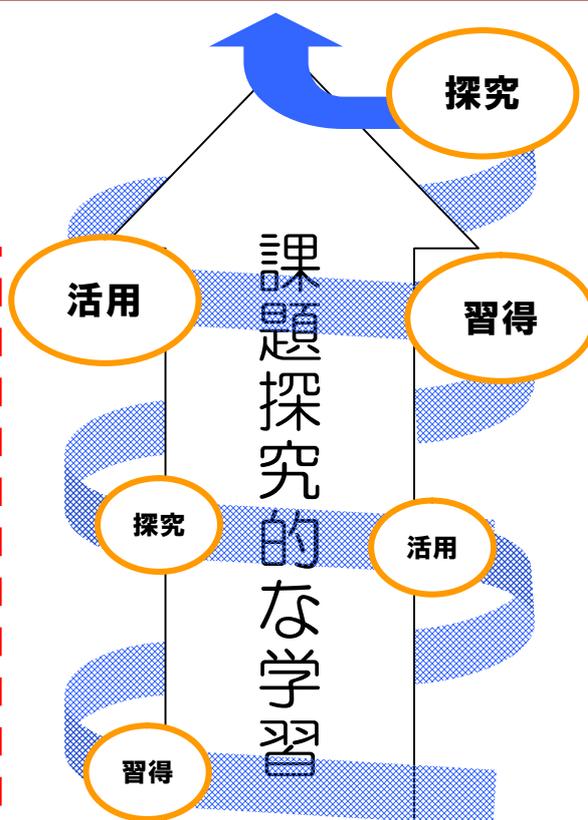
基礎的・基本的な『知識・技能の習得』、実験・観察やレポートの作成、論述といった『知識・技能の活用』、それを教科横断的な課題解決学習などの『探究活動』へと発展させる学習活動を、6年間という長い期間を活用して、繰り返し行うことで、より深い探究活動につなげることが可能です。こういった学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力や課題発見・解決力を育てるとともに、知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高めたり、自ら学び自ら考える力を高めたりすることが期待されます。

課題探究的な学習における
習得・活用・探究の学習スパイラル

- ◆ 課題発見・解決力の育成
- ◆ 思考力・判断力・表現力の育成

★ 習得・活用・探究の学習スパイラル

- ◆ 習得
基礎的・基本的な知識・技能の習得
例. 各教科における知識理解・技能習熟、情報収集スキル、調査手法（実験・観察等）習得
- ◆ 活用
自ら思考する力、表現する力の育成
例. 実験等のデータの整理・分析を行い、検証する力の育成、調査研究のまとめと発表
- ◆ 探究
自ら問いを立てて解決する力の育成
例. 課題発見⇒仮説⇒情報収集⇒情報の整理・分析⇒課題解決

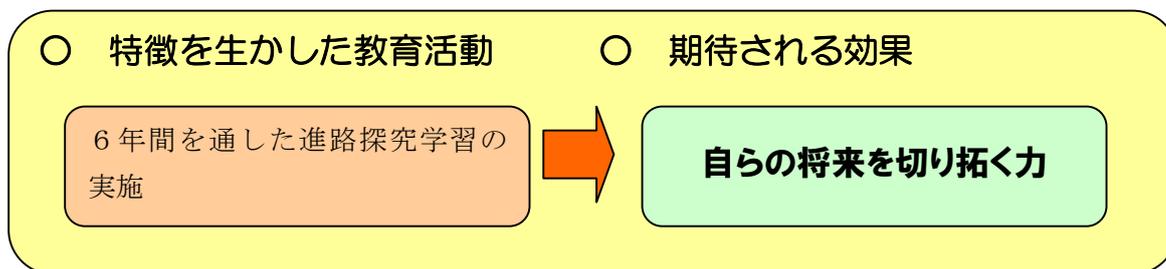


イ 進路探究学習の更なる推進

地域の人材や団体などと連携したインターンシップ^{注3}をはじめとする体験的活動を含め、6年間を見通した系統的、計画的な進路探究学習プログラムを構築することにより、より一層、学ぶことの意義や大切さを理解させ、学ぶ意欲の向上を図るとともに、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、自らの将来を切り拓く力を育てます。

<展開例>

- ・ 総合的な学習の時間等において、6年間を見通したインターンシップ等を実施します。
- ・ 学校行事や総合的な学習の時間等において、地域の様々な人々との触れ合いや地域ボランティアを実施します。

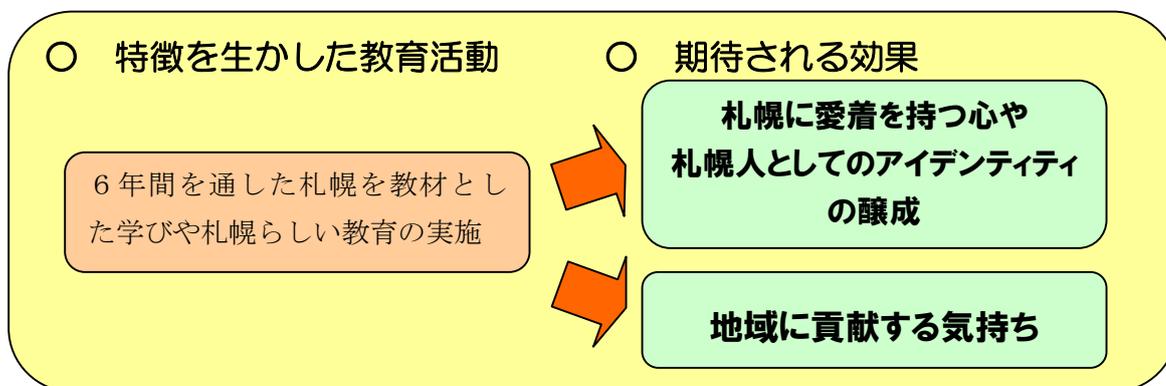


ウ 札幌を教材とした学び

6年間のそれぞれの発達段階に応じた、「札幌らしい特色ある学校教育」の3テーマ（雪・環境・読書）を教材とする学習や地域の教育資源の活用、地域活動への参加を行うことなどにより、「ふるさと札幌」への愛着と札幌人としてのアイデンティティを醸成するとともに、地域に貢献する気持ちをはぐくみます。

<展開例>

- ・ 「雪」「環境」をテーマとした課題探究的な学習を、除雪ボランティアやエコ活動などの体験活動から、森林調査などのフィールドワークまで、テーマに沿った読書活動も交えながら系統的に行い、その成果により、例えば札幌のまちづくりに関する提言として発信できるレベルにまで高めることが可能になります。



注3 インターンシップ

事業所の現場等で就業体験実習を行うことを言います。実社会の現場等で、地域の産業を知り、また体験することにより、自らの適性や職業との関わりを考える契機となり、職業観や勤労観をはぐくむ上で有効な取組とされています。

(2) 「幅広い異年齢集団による学び合い」を生かした取組

異年齢集団における活動や学び合いを重視することにより、学習意欲の向上を図ることや豊かな人間性をはぐくむことができます。

ア 特別活動等における異年齢集団による活動の重視

学校行事などの特別活動や部活動において、幅広い異年齢集団による活動を重視することにより、生徒の主体性やリーダーシップ等を育て、豊かな人間性をはぐくみます。

<展開例>

- ・ 中学校段階の生徒と高校段階の生徒が合同で行なう部活動や生徒会活動を組織することで、興味関心を同じくする生徒同士が、日常的に、学年を超えた幅広い異年齢集団の中で交流し、互いに刺激しあい、高め合うことができます。
- ・ 学校祭や体育大会などにおいて、1年生から6年生までの幅広い異年齢で一つのチームを組織するなど、学校行事等への取組を通して、幅広い人間関係を築き上げるような機会を提供します。

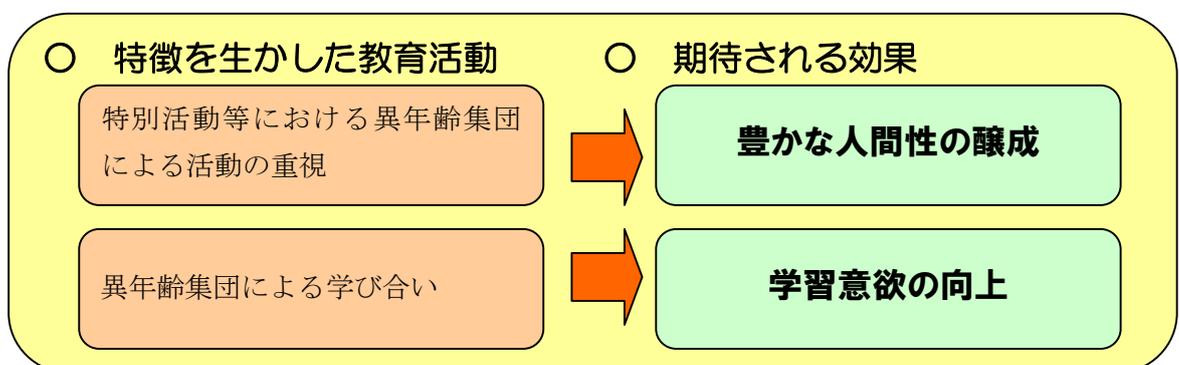
イ 異年齢集団による学び合いによる学習意欲の向上

高校段階の生徒が中学校段階の生徒にアドバイスや支援をするなどの「教え」「教えられる」場を設定することにより、理解を深めることや責任感をはぐくむとともに、身近な目標として上級生の活動に触れることにより、生徒の学習意欲の向上を図ります。

<展開例>

- ・ 中学校段階の実験の授業に高校段階の上級生がサポートとして加わることや、高校段階の課題探究的な学習の発表を下級生が聞いて学ぶことで、下級生は上級生を憧れの存在と感じ身近な目標とするなどの効果が、また、上級生は教える体験により学習への理解を深めるなどの効果が期待され、生徒全体の学習意欲を高めることが可能です。

※ 特に、課題探究的な学習では、「教える」「教えられる」という学び合いの関係から生徒の学習意欲をより一層高めることが期待されます。



(3) 「6年間にわたる見守り」を生かした取組

生徒が試行錯誤を繰り返しながら学び、成長していく過程を、中学校出身の教員と高校出身の教員が一体となって6年間継続して見守ることにより、生徒一人ひとりの長所や個性を発見し、より伸ばすことができます。

<展開例>

- 6年間継続して生徒の成長過程を見守る観点から、中学校出身の教員と高校出身の教員を区別することなく、一体的な学校運営を行うことや双方の教員が共同で、6年間を見通した生徒指導計画を立案するとともに、日常的に学び合いながら、生徒の成長を支援する体制を築くことで、6年間継続して生徒を見守り、生徒一人ひとりの長所や個性を発見し、より伸ばすことができます。

○ 特徴を生かした教育活動

6年間にわたる見守り

○ 期待される効果

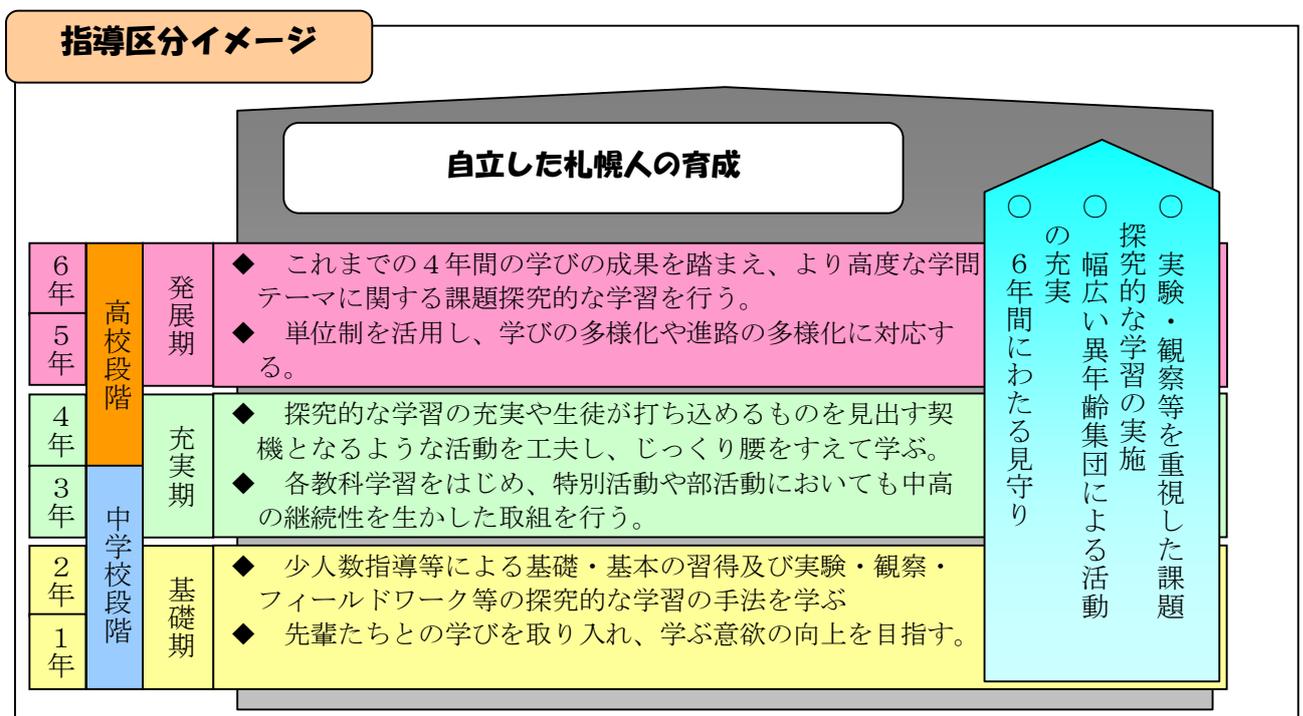
長所や個性の
より一層の伸長



2 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入

中高一貫教育は、中学校3年と高校1年を接続し、6年間一貫した理念で教育することに意義があることから、高校入試がない利点を生かし、生徒の発達段階に応じた指導区分を設定します。指導区分の設定に当たっては、中学校3年と高校1年の学習内容の円滑な接続を図り、依存から自立に向かう6年間の発達段階に応じたきめ細かな対応を行う観点から、それぞれ2年間ずつ、「基礎期」「充実期」「発展期」の3段階に区分し、例えば、基礎期においては、少人数指導等による基礎・基本の習得を図るなど、各指導区分に対応した教育プログラムを設定します。

また、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応するために、後期課程（高校段階）から単位制^{注4}を導入し、特に発展期において、大幅な科目選択を可能とします。



注4 単位制

必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の科目の中から興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し学ぶことができる制度です。また、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位数を修得すれば卒業が認められます。札幌市立高校では、旭丘高校及び大通高校が単位制を導入しています。

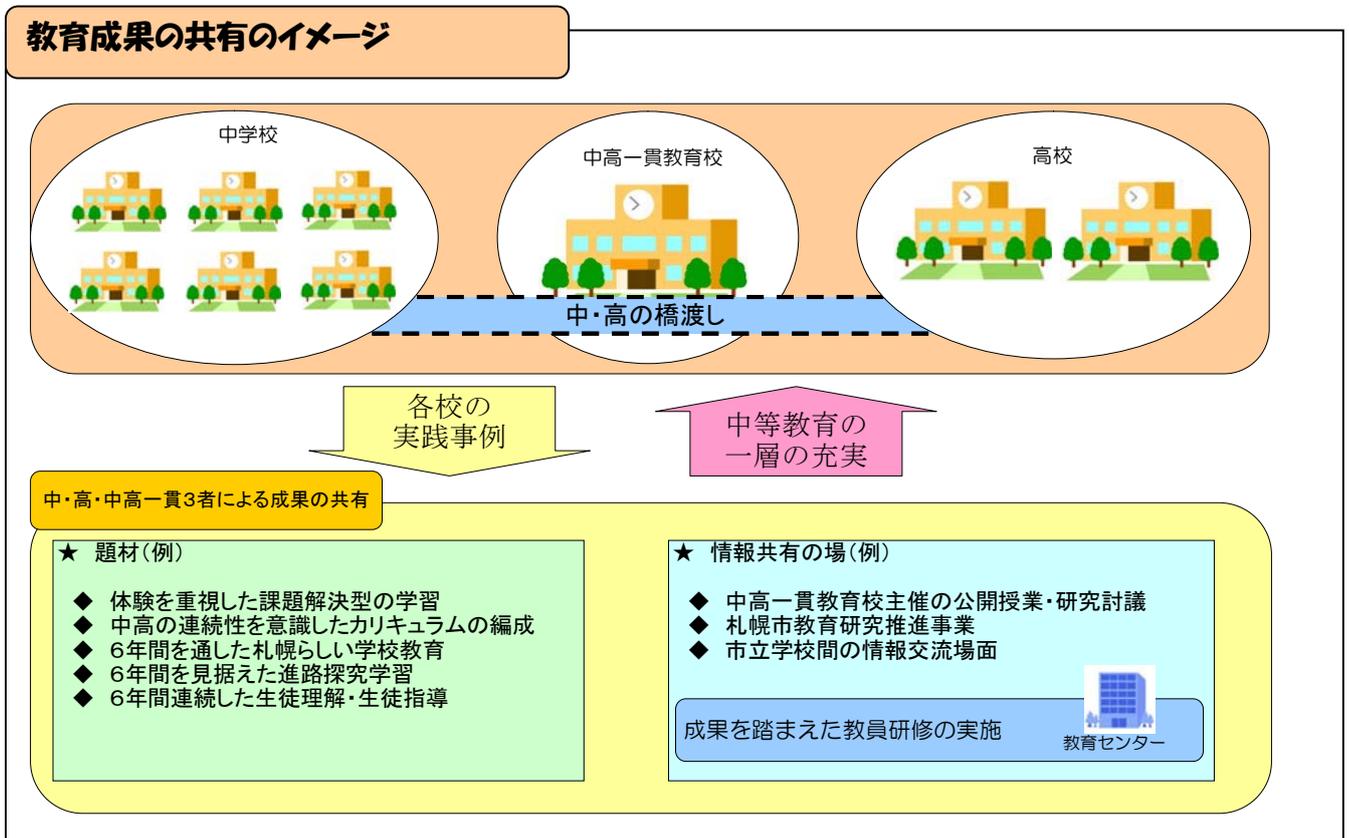
3 他の中学校・高校との教育成果の共有

中高一貫教育校においては、中学校教員と高校教員が共に協力しながら教材研究や学習指導を行うことにより、中学校段階と高校段階の連続性を意識した実践研究を行うことができます。

例えば、中高一貫教育校における授業公開や札幌市教育研究推進事業^{注5}、あるいは市立学校間の情報交流の機会等を通して、中高一貫教育校の取組を題材に市立中学校・高校も含めて、実践事例を持ち寄り、成果を共有することで、札幌市全体で推進している体験を重視した課題解決型の学習や発達段階に応じた進路探究学習などを更に充実したものにできると考えます。

加えて、その成果を札幌市教育センター^{注6}が実施する教員研修などでも活用していくことを想定しています。

以上のように中高一貫教育校が、中学校・高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高め合う取組を推進することにより、札幌市の中等教育の一層の充実を図っていきます。



^{注5} 札幌市教育研究推進事業

各学校の校内研究を基盤として、市内の小・中・特別支援学校の教職員が協働しながら主体的に取り組む実践的研究を全市的に積み上げるものであり、「小学校国語」など、24の研究項目のいずれか一つを教職員が選択して、当該研究項目における研究活動を推進し、年2回の授業公開等の研究会を開催するほか、各学校の校内研究をまとめた集録や、研究成果をまとめた研究紀要等を刊行するなどして、研究成果を共有しています。

^{注6} 札幌市教育センター

札幌市教育委員会が所管する施設であり、その主な業務として、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質の向上と専門的な力量を高める研修を行うほか、不登校等や特別支援教育・幼児教育に係る教育相談、価値ある教育資料の収集・提供、北方自然教育園や日本語教室等体験的・支援的な学習の場の提供を行っています。

4 魅力ある学校づくりに向けた取組

これまで述べてきた教育活動を効果的に推進するための教育環境整備を目的に、札幌市が設置する中高一貫教育校においては、特に以下の点について取組を進めます。

(1) 中・高教員一体となった学校運営

中学校でも高校でもない6年間一貫した教育を提供する新たな学校を創造するために、中学校出身教員と高校出身教員の区別なく、相互に授業を持つことを含め、一体的な学校運営を行います。

(2) 地域の教育力の活用

ゲストティーチャーを招いての授業や、札幌にある歴史的遺産や文化的施設などを活用した学習活動、札幌市内の企業での職場体験、ボランティア活動等の地域と協働する活動の実施など、札幌市内の教育資源を積極的に活用した教育活動の推進を目指します。

(3) 大学等との連携

生徒の学習意欲の向上を目的に、積極的に大学等の専門機関と連携し、生徒の興味関心に応じて、最先端の学問研究などの「ほんもの」に触れる機会を提供するなどして、知的好奇心を刺激する工夫を図ります。

(4) 異文化交流の機会の充実

中学校段階から、ネイティブスピーカーを積極的に活用した外国語教育の充実を図るとともに、市内語学研修や海外見学旅行、海外姉妹校提携、交換留学、ホームステイなど様々な取組を検討し、異文化交流の機会の充実を図ります。

